

「あなた」を大切にする「心のふるさと“パリ日”」
祝 開校50年 日仏文化学院

パリ日本人学校

教育目標



明るく
仲よく
たくましく

令和4年度 学校だより
第12号 2月1日発行

に きさらぎ “逃げる”2月 如月のスタート！

～新しいことに「挑戦」できていますか～



新しい年を迎えて1ヶ月が過ぎました。1月号で「うさぎ年」は新しいことに「挑戦」するのによいと紹介しました。さて、「挑戦」はできていますか。どんな小さなことでも良いのです。自分で決めてとことん「挑戦」してみましょう。2月は「逃げる月」と言われるように、あっという間に過ぎていきます。今まで以上に一日を大切にしたいですね。



2月は日本の昔の呼び方で「如月」（きさらぎ）。3日は「節分」、4日は「立春」で、暦の上では春を迎えます。ここフランスでもまだまだ寒い日が続きますが、先日パリの UNESCO 本部を訪問の際、日本庭園の桜がつぼみをふくらませていました。毎朝の日の出の時刻もおよそ1分ずつ早くなっていて、夜明けが確実に早く訪れています。「春の足音」が近づいていることを感じます。それでは、「逃げる」2月を「逃がす」ことなく充実した日々とできますようお祈りしています。

不審者対応 第4回避難訓練実施 1/11(水)



今回は事前の予告なしで不審者を想定した避難訓練を行いました。ご多忙の中、在仏日本大使館から警備の専門家である松浦様にご来校いただき、訓練の様子を見ていただきました。また、体育館での指導講評では、「全員がすばらしい態度で訓練に参加していた」とおほめの言葉をいただきました。また、ご指導の中で「犯人に声のとどきにくいようにハンカチを口にあてる」というものがありました。



火災の時も煙をすわないため役に立つハンカチが、不審者の時にも役に立つことがわかり驚きました。

海外に暮らしていると、日本では想像もつかないような「もしも」のときがあるかもしれません。これからも今回と同じように、真剣な態度で訓練に参加できるといいですね。

小学部3年生社会見学 ロダン美術館 1/18(水)

この冬、曇り空が続く中、この日は真っ青な空が広がる好天となりました。小学部3年生がロダン美術館を訪れ、庭園内の彫刻を鑑賞したり、屋内の彫刻や絵画を鑑賞したりしました。



図工の時間の事前学習を生かし、「考える人」や「地獄の門」など世界的に有名な作品を間近に見学し、気に入った彫刻を真剣にスケッチする姿が見られ、あっという間に時間が過ぎたという感じがしました。お気に入りの作品を決めて、今度は家族でゆっくり見学するのも良いですね。

小学部 縦割り活動 6年生がリードしました！ 1/17(火)



業間休みの時間を使って小学部が縦割り活動を行いました。6年生が中心となり、各班で工夫した遊びを行いました。グラウンドがぬかるんでいて使えないため、中庭で「だるまさんが転んだ」を行う班もありました。短い時間でしたが、どの班も6年生がリーダーとなって楽しい時間を過ごせました。

生徒会企画 全校集会で「ジャンケン列車」実施 1/20(金)



中学部生徒会の企画による全校集会が開かれ、全校で「ジャンケン列車」を行いました。業間休みの短い時間の中でしたが、本校のウリでもある小中一貫校としての小中交流促進が実現しました。外は冷たい冬の空でしたが、体育館は子供たちの熱気であふれていました。企画と運営をした生徒会本部の皆さんご苦労さまでした。

小学部6年生社会見学 UNESCO本部 1/25(水)

ここ数年のコロナ禍で6年生が訪問できず、2学期に中学部が合同で訪問しましたが、今回は本来の6年生による訪問となりました。

前回もご案内いただいた

中村様をはじめ、日下様、鶴岡様、塩川様の4人の職員の方々に、施設内をご案内いただきました。数々の著名な芸術家の作品や、世界各国からの寄付でできている建造物のことなどに、平和を求め続ける UNESCO の理念がひしひしと感じられる説明を受けました。また、大会議場では、実際の会議の様子も見学させていただきました。見学後は、地下にあるマイク付きの会議室のラウンドテーブルに座り、4人の職員の方々と質疑応答の時間を取っていただきました。予定時間をオーバーするほどの質問が出ましたが、一つ一つの質問に丁寧に答えていただき、多くの収穫を得ることができました。



ご多忙の中にもかかわらずご対応してくださった4人の皆様に、心から感謝を申し上げます。

【第11回】「応接室の額」～良い友は一生の宝～

本校の応接室には様々な額が見られます。その中でひととき目立つこの額、実は右から左に読みます。「良い友は一生の宝」と書かれています。さて、誰から寄贈されたのでしょうか。左の端に小さく名前が書かれています。答



えは、1978年（昭和53）7月14日、当時のパリ日本人学校トロカデロ校舎を訪れた、第67代内閣総理大臣の福田赳夫さんです。総理大臣就任の時に71歳で、当時としてはご高齢だったため、年齢を心配するテレビ局のインタビューには、「私は明治三十八歳です。」（明治38年生まれ）と、若さをアピールするユーモアを備えた方でした。私もそのインタビューをテレビで見た記憶があります。

下の写真は、トロカデロ校舎当時のパリ日を訪問した際のもので、日の丸を振って出迎えています。その当時の文集「マロニエ」には、福田元総理からのメッセージとして「皆さん一人一人は小さな外交官」という言葉が紹介されていました。



額の文字「良い友は一生の宝」の言葉は、私のようにちょっぴり長く人生を送って大切な友を亡くした経験もある者にとって、「宝」としての意味をひしひしと感じさせます。

時代が変わっても、良い友達が「宝」であることは昔も今も変わりません。それを伝えてくれるこの額もまた、パリ日の「宝」と言えるでしょう。

前号「校長室に飾られた3枚の絵」の謎へのメッセージ

前号で紹介した3枚の絵に関する情報として、日本人会の事務局を通じて、蛸子画伯のご子息、真理央様からメールをいただきました。「パリ日50年の絆」が感じられる内容で、ご本人様の了解も得ましたので、以下に紹介させていただきます。

私、真理央は1969年に東京で生まれました。家族とともに1974年、4歳のときにフランスに移住します。1976年にパリ日本人学校(小学校・トロカデロ校舎)に入学。1985年にパリ日本人学校(中学校・シュレーヌ校舎)を卒業します。その後帰国し、東京の美術大学を卒業し、画家として活動しています。

父の作品がパリ日本人学校に収蔵されることになった経緯ははっきりとは判りません。やはり在学生の父親であり、パリ画壇で活躍していたことが理由だと思います。当時パリ日本人学校には、私以外にも、画家の子供が多く在学していました。同じく作品が校長室にあるという、春日部洋さんも、父・善悦の友人でしたし、その息子さんも、私とパリ日本人学校の同級生でした。2学年年上には、同じく画家の増田誠さん、佐藤亜土さんのお子さんもいらっしゃいました。3学年ほど下には、画家福本章さんの娘さんもいました。また5学年ほど上には画家小野州一さんの息子さんがいましたが、確かその小野州一さんがパリ日本人学校のマロニエの校章をデザインされたように記憶しています。

飾っていただいている「サン・クルーからのパリ」は、父・善悦の得意とした眺望の風景です。当時は校舎がエッフェル塔近くのトロカデロにありました。そのこともあり、エッフェル塔が描かれているその絵が収められることになったのかもしれませんが。私が卒業して40年近く経ちますが、いまだに校長室に掛けていただいていることをたいへん嬉しく思います。なにか不明な点などございましたら、またご連絡ください。

